

令和4年度勝央美術文学館 MUSEUM 講座

夏休みこども体験講座 参加者募集!

8/10 2022 wed



きどうかいだんはな
綺堂怪談華あかり

きどうかいだん け
「綺堂怪談 消しゴムはんこづくり」

5cm角の消しゴムを彫ります! このくらい大きさです。

岡山県勝央町出身で、出版社を創って、たくさんの本を作った、岡本(森部)経一さん。その養父で、作家の岡本綺堂さん(東京生まれ)は、『青蛙堂鬼談』など、こわくて不思議な話をたくさん作りました。今年には綺堂さんが生まれて150年です。お祝いに、綺堂さんのこわい話に登場するものを「消しゴムはんこ」にして、和紙に押しつけて行燈をつくりまします。完成した行燈は、綺堂さんの生誕記念展の会場に飾ります。

※岡本綺堂(1872-1939年) 劇作家・小説家 / 岡本(森部)経一(1909-2010年) 出版人

日時 8月10日(水)

①10:00~12:00 ②14:00~16:00

対象 小学2年生~中学3年生(小学2年生は保護者同伴)

定員 各回10名

会場 勝央町公民館2F大会議室(勝央町勝間田200-1)

参加費
500円
(材料代)

講師
水嶋育子

要申込

受付期間 7月23日(土)~30日(土)

※ただし、定員に達し次第受付を終了します。

勝央美術文学館 ☎0868-38-0270

(10:00~18:00 / 月曜休館)

※新型コロナウイルスの感染状況により、中止または延期となる場合があります。
※持ち帰り用と10月開催の「岡本綺堂生誕150年記念展」に展示用、ひとり2つ行燈を制作していただきます。

!

行燈に使う和紙は、綺堂さんが江戸時代の話がたくさん作っていることにちなんで、江戸時代から作られている津山市の横野和紙を使います。

綺堂作品とモチーフの例

- 「牡丹燈記」: ボタンの花
- 「玉藻の前」: しっぽが9本のキツネ
- 「半七捕物帳」より「津の国屋」: ナデシコの花柄
- 「半七捕物帳」より「お化け師匠」: ホオズキ・ヘビ
- 「父の怪談」: 右前足をあげて招くキツネ
- 「笛塚」: ススキ・月
- 「影を踏まれた女」: 月、骸骨
- 「西瓜」: スイカ
- 「雨夜の怪談」: 2本足で歩く猫



勝央美術文学館

SHOO MUSEUM OF THE ARTS

〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4

Tel.0868-38-0270 Fax.0868-38-0260

http://museum.town.shoo.lg.jp